

## 島根県における畜産業の現状と環境対策について

島根県農林水産部農畜産振興課

食料安全推進室畜産物安全担当スタッフ 宮川 真一

### 1 島根県の概要

島根県は、中国地方の北部にあり、東は鳥取県に接して京阪神地方に通じ、西は山口県をはさんで九州地方に、南は中国山地をへだてて広島県に接し、北は日本海に臨んでいます。また、島根半島の北方40～80キロの海上には、島前、島後などから成る隠岐諸島があります。緯度でみると、県の中央部を北緯35°の緯線が通っており、これは京都、名古屋あたりと同じ緯線にあたります。

県土の東西の距離は約230キロ、面積は6,707.52平方キロメートルで全国18番目の広さであり、人口は約75万人です。本県の気象は、北陸型と北九州型の中間に位置する気象であり、年平均気温はおおむね12℃～15℃で、風は一般に山陽側よりも強く、冬、出雲平野に吹く季節風が強いのが特徴です。

### 2 島根県の農業の現状

本県では、県土の大半を生産条件が厳しい中山間地域が占めていることから小規模経営が多いのが特徴です。

主要な農産物としては、西日本有数の良質米産地として評価されている米、デラウェアの栽培面積全国4位のぶどうや中国地方特有の品種で栽培面積・生産量とも全国一の西条柿などの果樹、島根県の県花で生産量・生産額とも全国一のぼたん、平坦部から山間部へリレー出荷しているメロン、高品質の薬用人参などがあります。市場へ大量出荷できる産品・産地が少ない本県の農作物ですが、市場の評価は概ね高いと言えます。また全国的にも高い評価を得ている肉用子牛の生産県であり、

県全体の農業産出額は645億円となっています。

米は県全体の産出額の40%を占めており、特に産地のこだわり米の生産、新品種「きぬむすめ」の生産販売拡大に取り組んでいます。そのほか、米の全国に先駆けた台湾輸出やぼたん、薬用人参等の諸外国への輸出など農産物の輸出促進にも取り組んでいます。

### 3 島根県の畜産業の現状

本県畜産の産出額は191億円（平成16年次）で、県全体の農業産出額の29.6%を占めており、米に次ぐ主要部門となっています。

内訳は、肉用牛が66億円で34.6%、乳用牛が66億円で34.6%、鶏33億円で17.3%、豚が22億円で11.5%等となっています。

本県の畜産は、零細農家の飼養中止により家畜飼養頭数が減少傾向にあるものの、大規模肥育経営及び酪農経営の規模拡大により産出額は維持されています。

畜種別農家数及び飼養頭羽数

(平成17年2月1日現在)

畜種	戸数	飼養頭羽数	頭羽数／戸
肉用牛	2,110	35,100 頭	17
乳用牛	226	10,800 頭	48
豚	21	40,100 頭	1,910
採卵鶏	36	985,000 羽	27,361
ブロイラー	5	355,000 羽	71,000
合計	2,398		

**(1) 肉用牛**

本県は古くから和牛の産地であり、全国にその名をとどろかせた「第7糸桜」号をはじめ、昨年には「平文勝」（ひらふみかつ）号と優秀な種雄牛が續々造成されています。

飼いやすく、早熟早肥な「しまね和牛」は、過去8回の全国和牛能力共進会で常に上位を占め全国的に高い評価を受けています。

飼養農家は減少傾向にありますが、担い手等の育成により、繁殖雌牛の生産拡大による地域内一貫生産体制の強化等に取り組んでいます。



<平文勝>

**(2) 乳用牛**

本県の酪農は、長期にわたる乳価の低迷や環境問題の発生等により飼養戸数、頭数とも減少していますが、乳用牛改良の成果により一頭あたり乳量は確実に伸び生乳生産量は増加傾向にあります。生乳生産量のうち約34%は県内で処理され、そのうち約11%を学校給食用牛乳が占めています。

**(3) 豚**

本県の養豚は、過去の長期にわたる豚枝肉価格の低迷、環境問題の発生、農家養豚から企業養豚へという生産構造の変化等により飼養戸数、頭数とも減っていましたが、ここ数年は飼養戸数、飼養頭数及び農業産出額とも横ばいで推移しており、1戸あたりの経営規模は全国でもトップクラスとなっています。

**(4) 採卵鶏**

本県の養鶏は、企業養鶏へという生産構造の変化により農家養鶏の飼養戸数、飼養羽数ともゆるやかに減少傾向にありますが、1経営体あたりの経営規模は着実に拡大しています。

**(5) 肉用鶏**

本県のブロイラー生産は、2法人の大規模経営が県内生産の約8割を占め、県内に食鳥処理場が無いことから鳥取県、岡山県、山口県に生体で出荷されています。

## 4 平成17年度の畜産環境保全に対する取組

本県では、家畜排せつ物による環境汚染防止と有機質資源としての利活用について、平成12年9月に策定した鳥根県家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画（以下「県計画」という。）のほか鳥根県環境基本計画（平成11年2月）、しまね循環型社会推進計画（平成14年3月）及び宍道湖・中海に係る湖沼水質保全計画（第4期）等のなかで計画及び推進しています。推進指導体制については、平成12年9月に策定した

協議会区分	県協議会	地域協議会（7管内）
構成員	本庁関係課、地方機関及び関係団体	地方機関、市町村及び関係団体
推進指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導要領に基づく指導体制の整備</li> <li>・県計画に基づく施設整備の推進</li> <li>・畜産環境汚染防止対策及び家畜ふん尿の利用促進のための施策の検討</li> <li>・各地域協議会に対する指導</li> <li>・その他関連事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境と調和した畜産振興推進指導方針の策定</li> <li>・地域における畜産環境汚染防止対策及び家畜ふん尿の利用促進のための施策の検討</li> <li>・畜産経営環境保全実態調査に基づく指導・助言</li> <li>・その他必要事項</li> </ul>

島根県環境と調和した畜産振興推進指導要領（以下「指導要領」という。）に基づき、島根県環境と調和した畜産振興推進協議会を設置し、以下について取り組んでいます。

### (1) 家畜排せつ物処理施設の整備支援

本県では、平成16年度まで県単事業により必要な堆肥生産施設・機械の整備支援を行ってきましたが、家畜排せつ物法の完全施行にあわせ概ね施設の整備ができたという判断から、平成17年度からは当メニューを廃止にし、国の事業を活用し支援しています。

### (2) 耕畜連携による堆肥の利用促進

平成17年3月に策定した新農業・農村活性化プラン後期施策において、品質にこだわった売れる農産物づくり、有機・エコなど安全・安心で環境に配慮したものづくり、地域資源を活用したものづくりなど耕畜連携を重点的に推進することとしております。

主には、産地のこだわり米の生産拡大、エコファーマーの拡大、県独自のエコロジー農産物に係る推奨者数の拡大などを掲げ、各種事業による支援など取り組んでいます

#### ア. 施設等の整備支援

平成17年度からは県単事業により今後の耕畜連携による堆肥の耕地還元に向けて堆肥保管庫・散布機械等を重点的に支援することとしました。

#### イ. 畜産農家と耕種農家の堆肥需給のマッチング

- ①県単事業において、各地域で生産される良質堆肥を同地域内の耕種農家に供給し作物生産の実証をしてもらう取組を開始
- ②地域あるいは地域の枠を越えた堆肥利用の促進を図るため県域の堆肥利用マップの作成
- ③県域または地域による土づくり研修会の開催
- ④堆肥品質向上を図る堆肥品質共励会の開催など

### (3) 家畜ふん尿処理技術の研究・開発

「家畜排せつ物の高圧通気方式による堆肥化技術の実証」



〈堆肥品質共励会出品優良堆肥の説明風景〉

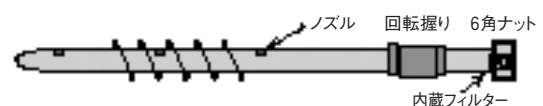


〈今年度作成した県内堆肥マップ〉県ホームページにも掲載

県内は、中山間地域での繁殖農家かつ零細農家が多いところから、管理基準適用対象農家以外の農家の適切な家畜排せつ物の管理・利用の促進に



エアインジェクターによる通気の模式図。堆積物にエアインジェクターを差し込み、エアホースでコンプレッサーに接続し、高圧空気を注入する。



エアインジェクターは総ステンレス鋼製、長さ25m、直径2.5cm、50cm間隔に空気吐出ノズルがあり、回転握りを握り6角ナットをソケットレンチで回転しながら差し込みと抜き取りを行う。

着眼し、県立畜産技術センターにおいて低コストで堆肥化ができる技術を開発し実証しています。

## 5 おわりに

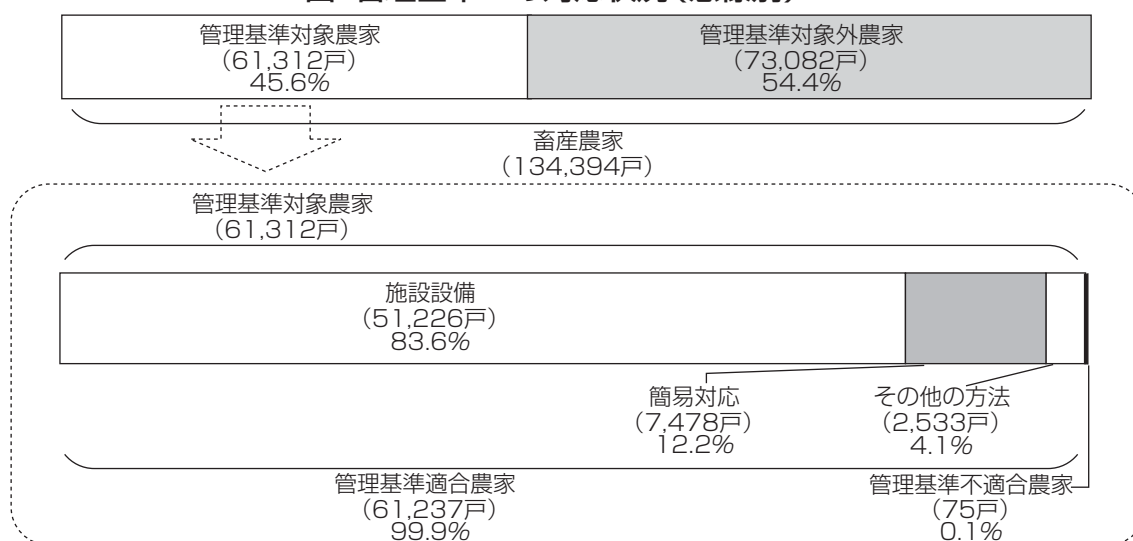
平成17年度に本庁課の組織再編があり、農産部門と畜産部門が合併し、農畜産振興課としてスタートしました。今後のたい肥利活用の更なる促進に向けて、耕畜連携する体制で各種取組や支援を行っていききたいと思います。



### データ

#### 家畜排せつ物法施行状況調査結果について (平成17年12月1日時点) 農林水産省

図1 管理基準への対応状況(態様別)



※「その他の方法」には、畜舎からほ場への直接散布、周年放牧、廃棄物処理としての委託処分、下水利用などが含まれる

表1 管理基準への対応状況(畜種別)

	管理基準対象農家 (戸) A	うち基準に適合 (戸) B		B/A (%)	
		うち基準に適合 (戸) B	基準に不適合 (戸)		
全 蓄 種	61,312	61,237	75	99.9%	
畜種別内訳	乳用牛	24,118	24,086	32	99.9%
	肉用牛	23,409	23,389	20	99.9%
	豚	6,085	6,068	17	99.7%
	採卵鶏	3,610	3,605	5	99.9%
	ブロイラー	3,208	3,208	0	100.0%
	馬	882	881	1	99.9%